# UIFA JAPON NEWSLETTER

No. 132 Dec. 25, 2025

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

国際女性建築家会議　日本支部


■主な内容


第３回能登「お茶カフェ＆住宅相談会」報告
特集：大阪・関西万博を記録する
　心躍る万博に魅力
　大屋根リングの魅力
　万博漬け引換券
　大阪万博トイレ事情-車いすで体験
　大阪万博で見る循環型社会
　万博とスタンプラリー
第７回Web交流会　船津さんの話を聞きたい！

万博会場をめぐる木造の大屋根リングへ上がるエスカレーター付近は、会期末は沢山の人々であふれていた
（写真：岩井紘子）

## 第３回能登「お茶カフェ＆住宅相談会」報告
## Report on the Third Noto Tea Cafe & Housing Consultation Meeting


宮本 伸子
MIYAMOTO Nobuko


能登半島地震（2024年１月１日発災）から２年。ユイファ・ジャポンの災害復興見守りチームの活動は継続性を大事にしており、能登半島支援のお茶カフェは、2024年10月４～５日、2025年３月15～16日に引き続き３回目を2025年10月４～５日に開催した。

### ●10月４日は初めて輪島市で開催

11時に金沢で集まり、名古屋から参加の車２台に分乗し、輪島市道下第一団地集会所に13時頃に到着。早速準備を開始したが、来訪者が増えて14時には席がいっぱいとなる。挨拶もそこそこに、お菓子、お茶を出すというあわただしさとなった。お抹茶の後、多くの方が各種のお茶菓子と紅茶を楽しんでいかれた。韓国から来訪したグループによる韓国語の合唱も入ったにぎやかな「お茶カフェ＆住宅相談会」になった。

来訪者は40人ほど。住宅相談としては、家を建てかけている途中で被災したが法律的な責任は如何、工事費用明細についての相談などがあった。

### ●10月５日は七尾市田鶴浜で３度目の開催

５日は宿泊地近傍の七尾市田鶴浜垣吉第一団地集会所で、朝９時過ぎから準備。仮設住宅では狭いので家族で話し合いたいと１テーブルを囲んでの賑やかなグループを迎えて、10時半には「お茶カフェ＆住宅相談会」を開始し、現地の被災状況の調査などで顔なじみとなっている京都府立大学の学生や復興支援員となっている学生が声がけをして来訪者が増え、お点前出前もして、12時頃に一段落。来訪者18人＋お手前の出前５人分。

住宅相談としては、公費解体で建物が無くなっている土地への課税はどうなるのか。部屋の増設を考えているが鬼門の関係が気になるなどがあった。次第に詳細かつ突っ込んだ相談内容になっていることが感じられ、今後の継続の必要性が感じられた。

Since the Noto Peninsula Earthquake on January 1, 2024, we have held the tea cafe three times.

On October 4, 2025, we gathered in Kanazawa and arrived at the Wajima City Touge Daiichi Danchi Community Center in two cars. By 2:00 PM, the seats were full, and we served Japanese sweets and green tea. During the event, a choral group visiting from South Korea also performed. About 40 people stayed for a while.

On October 5, preparations began early at the Tatsuruhama-Kakiyoshi Daiichi Housing Complex Community Center near our lodging in Nanao City. Since their temporary housing units are cramped, families wanted to discuss matters together, so lively conversations started around a single table. At 10:30 AM, we started the tea cafe. Students encouraged people to come, visitors increased, and we even delivered tea-and-sweets sets. The tea gathering wrapped up around noon. About 18 people visited.

Some of the housing consultations covered quite complex issues, such as ownership disputes over land and buildings, and taxation problems for land where the buildings no longer exist.

輪島市道下第一団地集会所での「お茶カフェ＆住宅相談会」は、席がいっぱいになった（写真：平野正秀）

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、夢州で開催された大阪・関西万博が閉幕した。万博に出向いた会員6名にその報告を寄稿してもらった。開幕前のネガティブな世論は、開幕後は、一転して明るいニュースで溢れていた。万博が残すレガシーとは、目に見える建物や成果物や数値で現れる効果だけでなく、万博開催に伴う協創・共創や協働の作業から生まれた多くの体験や思考の蓄積といったソフトレガシーによっても、未来をひらく技術の進化が促され、社会的課題の解決の可能性へ繋がることではないだろうか。私たちは、『万博レガシー』にどのように関わっていけるであろうか。

万博開催の背景とされている統合型リゾート（IR）建設が北側隣接地で進められている。汚染土壌等の地盤対策費用への懸念の他、建設業界の深刻な人材不足の中、その影響が心配される。

今後のIR建設や会場跡地利用に注視していきたい。(広報委員)

We asked the six UIFA members who visited Expo 2025 in Osaka to contribute reports. The legacy left by the Expo (both “hard” and “soft”) lies in the evolution of technology that opens up the future, leading to the potential for solving social challenges. How can we engage with this “Expo Legacy”?

The construction of an Integrated Resort (IR), cited as the backdrop for hosting the World Expo, is proceeding on the adjacent northern Expo site despite various challenges and concerns. We will continue to closely monitor the future IR construction and the utilization of the former venue site.

## 心躍る万博の魅力　伊藤 京子
## The Appeal of World Expos　ITO Kyoko

皆さん、万国博覧会（以後万博と略す）の目的をご存じですか？ その目的は「公衆の教育」と「新しい技術の進歩の促進」。目的はさておき、万博に参加すること自体がわくわくドキドキして楽しいもの。楽しみ方は人それぞれ。各国の文化、人々、食べ物、そして何と言っても建築に携わる者には、普段目にしないような斬新なデザインに触れられるのが魅力。今回の大阪・関西万博も、初日から足を運んだ。

**●1970年大阪万博から始まって**

私の初めての万博体験は、1970年の大阪万博。

次は1985年つくば科学万博。展示されていたHSST（磁気浮上式リニアモーターカー）は、未来の乗り物として強く印象に残り、その技術は進化を遂げ、「愛・地球博」に合わせて開業した東部丘陵線「リニモ」として現在も運行。そして技術は、次なるリニアへと続いている。

**●2005年「愛・地球博」で学ぶ**

2000年春には淡路花博へ。安藤忠雄氏設計の「淡路夢舞台」や「海の教会」を見学。なぜか花の記憶は無い。同年、ハノーバー万博へ。特に目を引いたのが日本館。坂茂氏設計による世界初の紙管グリッドシェル構造のパビリオン。

2005年、地元・愛知で開催された「愛・地球博」は公務員だった夫が土地の買収説明会から建設、会期中の維持管理、解体まで携わっていたこともあり、万博の成功は裏方の力によって支えられているのだと実感した。

**●海外の万博へ**

2008年サラゴサ、2010年上海、2012年麗水国際博覧会へ。サラゴサでは、ザハ・ハディド設計の「サラゴサ・ブリッジ・パビリオン」に感動。上海では中国の巨大なパビリオンに圧倒され、麗水ではアットホームな雰囲気の万博を体験した。2015年のミラノ万博では、木組みのパビリオンで日本の木造技術を世界に示し、展示では初めて「チームラボ」の作品に触れ、魅了された。

**●待ち遠しかった2025年**

2020年のドバイ万博（2021～2022開催）は、コロナ禍のため行けず、心残り。よって、2025年の大阪・関西万博はとても待ち遠しかった。これまで数々の国際博覧会を経験してきたが、今回の万博は内容が非常に充実しており、テーマ通り「生命」や「未来」について深く考えさせられるものであった。

The purpose of World Expos are “public education” and “promotion of new technological advancements.” Everyone enjoys an expo in their own way, but for those involved in architecture, encountering innovative designs rarely seen elsewhere is a major attraction. I attended the Osaka Expo from its opening day.

**●Starting with the 1970 Osaka Expo**

My first experience was the 1970 Osaka Expo .

The next was the 1985 Tsukuba Science Expo. The HSST (High-Speed Surface Transport) magnetic levitation train exhibited there evolved and became the Linimo Line, which opened in conjunction with the 2005 Aichi Expo and is still in operation today.

**●Learning from the 2005 Expo Aichi**

In 2000, I visited the Awaji Flower Expo and toured Tadao Ando’s works. That same year, I went to the Hannover Expo, where the Japanese Pavilion, designed by Shigeru Ban, stood out.

In 2005, the Aichi Expo was held in my hometown. My husband, a public servant, was involved from land acquisition briefings to construction and maintenance during the event, and dismantling afterward. It made me realize that the success of an expo is supported by such efforts behind the scenes.

**●Visiting World Expos Abroad**

I also attended the 2008 Zaragoza Expo, the 2010 Shanghai Expo, and the 2012 Yeosu Expo. In Zaragoza, I was moved by Zaha Hadid’s design of the Bridge Pavilion. In Shanghai, I was overwhelmed by China’s massive pavilion. At the 2015 Milan Expo, Japan showcased its traditional wooden architecture through a timber pavilion, and I was captivated by TeamLab’s digital art for the first time.

**●The Long-Awaited 2025 Expo**

Unfortunately, I couldn’t attend the 2020 Dubai Expo (held 2021-22) due to the COVID-19 pandemic. So I was especially looking forward to the 2025 Osaka Expo. Having experienced many World Expositions, I found this one particularly rich in content. True to its theme, it deeply inspired reflection on “life” and “the future.”

## 大屋根リングの魅力
## The Appeal of the Grand Ring

小野 全子
ONO Masako

**存在感のある大屋根リング**は、世界最大の木造建築物として2025年3月4日にギネス世界記録に認定された。設計者藤本壮介氏の説明を直接聞く機会を得られた。大屋根リングは、「多様でありながら、ひとつ」という会場デザインの象徴的存在である。建築面積は、61,035.55㎡、高さは20mを誇るほか、全周は開催年度にちなんで2025mである。また、使用木材の7割が国産材のスギ、ヒノキが使われている。

藤本氏の話の中で最も印象に残ったのが芝生。寝転ぶことができるような勾配とした斜面が東にあり、夕日が西側に沈むのを眺めながら寛ぐことができる。

もうひとつ興味深いのが区画を3つに分け、日本を代表するゼネコン3社で施工している点である。各社は**貫接合の楔**に使われる素材の木材と鉄の割合を独自に組み合わせ、この大規模な木造建築を支える技術を競い合っていた。日本を代表する3社の技術力の組み合わせを目のあたりにし、これからの日本の施工技術力の発展に大いに期待を寄せている。

The Grand Ring Roof received a lot of attention at the Expo. I had the opportunity to hear a direct explanation from Sou Fujimoto, the designer of the ring. What made the biggest impression on me from Mr. Fujimoto's talk was the lawn on top of the ring. There is a slope on the east side that is sloped so you can lie down and watch the sun set. Another interesting fact is that the structure was constructed by three leading general constructors in Japan. A unique point is the material used for the wedges used in the through-joints. Each company developed its own unique combination of wood and iron in the materials used for the wedges, showcasing their engineering expertise in supporting this large-scale wooden structure.
Witnessing the combination of technologies from three of Japan's leading construction companies inspired great expectations for the future advancement of Japan's construction engineering capabilities.

貫構造の大屋根リングを下から見上げる（撮影：小野 全子）

## 万博漬け引換券
## Expo Pickled Plum Voucher

有村 尚子
ARIMURA Naoko

2025年9月20日に万博に行った。行った理由は❶夫から55年前の大阪万博に感動したと聞き興味がわいた。❷大屋根リングを実際に見てみたかった。❸若手建築家対象のプロポーザルが行われて建った20の施設がある。サテライトスタジオ（東）を手掛けたナノメートルアーキテクチャーの野中氏と三谷氏は愛知を拠点に活動している方々だ。昨年5月にSNSで募集のあった稲わらを苫編みするイベントに夫婦で参加し、サテライトオフィスの外壁になるわらを1時間半で1.2m程編んだので、自分が携わった外壁を見たかった。の3つだ。

予約できたのはシグネチャーパビリオン「EARTH MART」の1つのみ。放送作家の小山薫堂氏プロデュースのパビリオンだ。BSフジで放送されている「リモートシェフ」がとても面白く、最近気になっている人だ。「生きるとは食べるということ」「たった1つのいのちをつむぐためにどれだけのいのちが必要なんだろう？」など、とても考えさせられる展示だった。最後に**「万博漬け引換券」**をもらった。会場で実際に漬けられた2050年に食べられる梅干しの引換券だ。引き換えイベントは25年後にQRコードから確認してほしいとのこと。果たして私は食べられるのだろうか。

I went to the Expo. I had three reasons for going:
❶ My husband was deeply moved by the Osaka Expo 55 years ago.
❷ I wanted to see the Grand Ring.
❸ The two architects from Nanometer Architects who designed the Satellite Studio（East）are based in Aichi. Last May, I participated in a straw-weaving experience event they advertised on social media. I really wanted to see the actual exterior wall I had been involved with.

I could only book the Earth Mart pavilion, which was produced by broadcast writer Kundo Koyama. The exhibition was deeply thought-provoking. Finally, I received an Expo Pickled Plum Voucher. It's a voucher for pickled plums actually pickled at the venue, to be eaten in 2050. I wonder if I'll actually get to eat them.

↑万博漬け引換券（表・裏）

←サテライトオフィス（東）外観

（撮影：有村 尚子）

## 大阪万博トイレ事情―車いすで体験

小池 和子

## Osaka Expo Toilet Accessibility: Experiencing from a Wheelchair

KOIKE Kazuko

9月20日、友人の上田さんの協力で万博トイレを車いすで体験をした。万博のトイレは45ヶ所、体験したのはゲート内のデザイナーズトイレ8ヶ所のうちトイレ2・6・8と、大屋根リング上のトイレ1ヶ所。

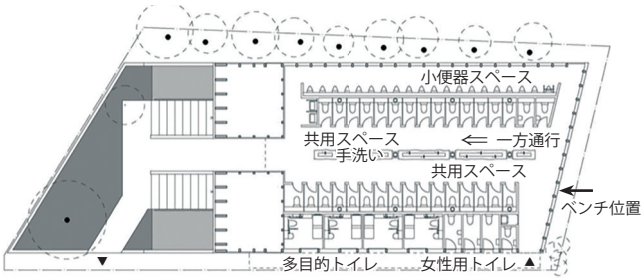
●トイレ2は、石柱と屋根だけの開放的なトイレ。多目的ブースの引戸は、取手側にスペースがなく、取手端部が邪魔で車いすからは鍵の開閉がしにくく、下りて操作した。

●トイレ6は、階段状の展望スペースのあるオールジェンダートイレ。入口を入ると中央に手洗いスペース、その両側に共用ブース、一番奥に小便器が配置されている。手洗い横の壁際のベンチで、男性が本を読んでいた。休憩するにはいいところを見つけたと思ったが、男性の存在に一瞬？ となった。動線は一方通行だが、囲われた閉鎖的な空間に多様な人が混在するため、入るのは躊躇するという、意見が出ていた。多目的トイレは、庇があり「使用」がわかる照明や緊急時点滅ライトも設置され、外から直接出入りできるため、入りやすいのか多様な人が利用していた。引戸の取手側にスペースがなく、車いすに乗ったままでは鍵の開閉がしにくく、下りて操作した。

●トイレ8は、多様性配慮の塔状トイレ。庇の無い独立した男女別・共用・多目的ブースが、利用別に配置されている。案内板はあるが、配置が複雑で利用状況 がわかり難く、どこに並べばいいのかわからないとの指摘があり貼り紙で対応と聞いた。利用者も多く並んでいた。

●大屋根リング上のトイレは、よく見かけるレイアウトで多目的トイレを挟んで両側に男女別トイレを配置。多目的トイレの扉は自動のため、開閉の設定時間内に車いすでの出入りが対応できず、介助者に扉を押さえてもらい出入りしていた。

●万博のトイレは仮設だが、①スムーズな利用 (ブースの個数や男女比、配置)、②天候への配慮 (ブースの庇や屋根の有無)、③扉や鍵（車いすの動線、形状と位置）、④多様な利用者への配慮（性差、車いすと子連れの使用時間、動線と建物形状）が課題であり、体験できて感謝です。




トイレ6 上：外観　下：平面図(筆者により文字を追加)
imagi@KUMA＆ELSA

There were 45 restrooms at the Expo. Among the eight designer restrooms inside the gates and one on the Grand Ring, I used Restrooms 2, 6, and 8.

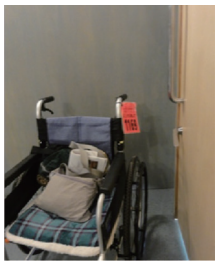
●The sliding door of the multipurpose stall in Restroom 2 had no space next to the handle. The handle end obstructed access, making it difficult to lock or unlock the door from a wheelchair. I had to get up to operate it.

●Toilet 6 was an all-gender restroom. A handwashing area was located in the center, flanked by shared stalls on either side, with urinals positioned at the far end. Although the flow was one-way, some expressed hesitation about entering due to the enclosed, confined space where diverse users mixed. The multipurpose toilet, accessible directly from outside, seemed easier to enter and was used by a diverse range of people. There was no space next to the handle of the sliding door, making it difficult to lock or unlock while seated in a wheelchair. I had to get up to operate it.

●Toilet 8 was a tower-style restroom designed for diversity. Separate, unroofed stalls for men, women, shared use, and multipurpose use were arranged according to usage. While there was a signboard, the layout was complicated and the occupancy status was difficult to discern. I heard they addressed this issue with posted notices.

●The toilet on the Grand Ring featured a standard layout with a multipurpose restroom in the center flanked by separate men's and women's restrooms on either side. The automatic doors of the multipurpose restroom could not accommodate wheelchair access within the preset opening and closing time, so the user had to have an attendant hold the door open to enter and exit.

●The Expo toilets were temporary, but key challenges included: ① Smooth usage (number of stalls, gender ratio, layout) ② Weather considerations (presence of stall canopies or roofs) ③ Doors and locks (wheelchair access routes, shape and placement),④ Accessibility for diverse users (gender differences, wheelchair and parent-child usage times, pathways and building layout) I'm grateful to have experienced this.



左：トイレ6の鍵
取手側にスペースがなく開け難い鍵（撮影筆者）

右：トイレ2の鍵
操作がしにくい多目的トイレの鍵と取手端部
（撮影筆者）

トイレ8　案内板　（写真※）

トイレ2　大阪城「残念石」利用トイレ　外観と並んでいる男性（撮影筆者）

トイレ8　塔状トイレ外観と並んでいる利用者　（写真※）

写真※：第67回建築士会全国大会おおさか大会福祉まちづくりセッション資料より

## 大阪万博でみる循環型社会　稲垣 弘子
## A Circular Society at the Osaka Expo　INAGAKI Hiroko

万博を訪れたのは、6月17日の午後、南紀州へ行く途中、急遽大阪万博に寄ることにした。大屋根リンクを見たかったことと、事前予約なしでも入れる所だけ、行列対策の携帯椅子を持っての参加だった。

**●待ち時間には構造や外構を眺め**

1時間半待ち等の表示を見ながら、時間の少ない所に並び、携帯椅子を活用し、建物の納まりなどを眺め、暑さ以外はそれほど苦にならず、10数か国見学できた。カタール館は待機列側の外壁にQRコードを等間隔に設置し、各都市の映像を観られる等工夫がされていた。

**●印象深い循環型社会の展示**

印象深かったのは、ドイツ館。再生可能な材料を使用した,木造の7つの円形建物。自然光を取り入れた開放的な空間。「循環経済」をテーマに参加型展示で、音声ナビゲーターの「サーキュラー」片手に循環型社会を見ていく。最後の広い空間で、円形の床がゆっくり回転し、ゆったりしたソファーに座りながら、鏡天井の映像を眺め、自身が循環経済にどう影響できるか考えるコーナーであった。立ちっぱなし、歩きっぱなしから解放されくつろげ、真に人間への循環型社会を感じられた。

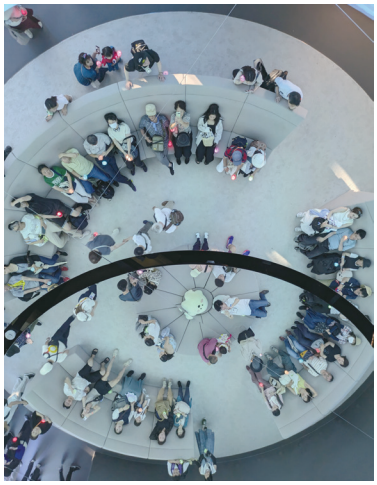
The Expo was known for being crowded. However, I wanted to look the Grand Ring and visit the pavilions without reservations.

**●While waiting, observing the structures and exteriors**

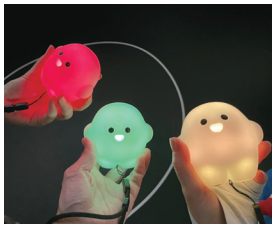
During the wait, I used my folding chair and observed the buildings' structures. I successfully visited over ten pavilions. The Qatar Pavilion featured QR codes placed at regular intervals along the outer wall facing the waiting line.

**●The German Pavilion left a deep impression**

The building consists of seven circular wooden structures, open spaces that capture natural light using renewable materials. Guided by an audio navigator named Circular, visitors sat on comfortable sofas while the circular floor slowly rotated. They contemplated ways to contribute to a circular economy while watching images reflected on the mirrored ceiling. Freed from the hustle of walking, I felt a sense of peace and experienced a human-centered circular society.



ドイツ館の鏡天井にくつろぐ我々が映る



音声案内のサーキュラ
（写真：深見清佳）

## 万博とスタンプラリー　森田 美紀
## World Expo and Stamp Rally　MORITA Miki

今回の万博、友人達の話を聞き、混んでいても大屋根リングを1周しよう！と、また同居する父に「僕も1970年の万博に行ってとても良かった。2人とも行った方が良い」と言う言葉に背中を押され、7月13日～15日に出かけた。

**●ブルーオーシャン・ドーム**

建物で特に印象深かったのは、坂茂氏設計のブルーオーシャン・ドーム。竹の集成材（木造）、炭素繊維フレーム、紙管の3種類のドームで構成されていて、コンセプトや映像も素晴らしく訴えるものがあった。プラスチックごみを減らす努力をしなければと思った。パソナ館のiPS心臓と心筋シートにも驚かされた。

**●スタンプラリー**

入場後すぐ入ったお店で、「スタンプパスポート」というスタンプラリーのノートを買ってしまい、スタンプを押しまくる3日間となった。結局138個のスタンプと6か所回って完成する重ね押しスタンプを集めた。パビリオンに入れなくてもスタンプだけ押せる箇所も多く、全て完成したかったと今も主人はぼやく。スタンプラリーは積極的にパビリオンをまわるエネルギーになった。

Even though it was very crowded, I decided to walk around the Grand Ring. Also, my father, who lives with us, said,"The 1970 World Expo was really great. You should go too."

**●The Blue Ocean Dome**

The Blue Ocean Dome was especially impressive. Designed by Shigeru Ban, it consists of three types of domes. The concept and visuals were superb and truly compelling. I was also amazed by the iPS heart and myocardial sheet exhibit at the Pasona Pavilion.

**●Stamp Rally**

I bought a Stamp Passport notebook at the souvenir shop after entering, and the next three days became a relentless stamp-collecting spree. In the end, we collected 138 stamps and completed the overlapping stamp challenge by visiting 6 locations. I think the stamp rally gave us the energy to actively explore the pavilions.

重ねて押すと浮世絵に

ブルーオーシャン・ドーム

No. 132 Dec. 25, 2025

Union Internationale des Femmes Architectes Japon

UIFA JAPON 事務局
〒102-0083
東京都千代田区麹町 2-5-4
第 2 押田ビル　㈱生活構造研究所内
Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866
E-mail: uifa@liql.co.jp
URL: http://uifa-japon.com
発行　2025 年 12 月 25 日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON
c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUARITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI,CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN　〒102-0083

PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866
URL :http://uifa-japon.com

## 第 7 回 Web 交流会　2025 年 9 月 27 日　7th Web Exchanging Meeting

### 船津さんのお話を聞きたい！　森田 美紀
### We Want to Hear from Ms. Funatsu!　MORITA Miki

船津さんとは毎月歌舞伎を見に行き、その時に、満州国での暮らしや戦争のことについての話を聞く機会が多く、私一人で聞くにはもったいない話ばかりだった。昨年のニューズレター126号にも「私と戦争と建築」を寄稿頂いたが、是非元気な声で皆さんにお話いただきたくWeb交流会を企画。アクセスの良い高田馬場のレンタルルームでアットホームな雰囲気の中、会員限定のZoomで開催された。

当日、駅に迎えに行くと、ご主人もご一緒で、2人仲良くにこにこ笑ってお待ちになっていらした。

船津さんは、満州国吉林省に家族と暮らしていたが、当時世界で２番目の規模、豊満ダムの管理技術をお父上が中国に引継ぐため、強制留用で戦後8年間帰国できなかった。

帰国後は猛勉強をして、当時麻布にあった法政大学工学部に入学、工学部では唯一の女性だったそうで、女性用トイレが無く、昼休みにバスに乗って渋谷の東急デパートまで行っていたという。

1×1コレクション展でも写真展示したアンコールワットには1965年（昭和40年）に訪問し、ポル・ポト派に占拠される前の美しい姿を見せてくれた。

1976年　第４回ＵＩＦＡ世界大会ラムサール（イラン）、1979年シアトル大会、1984年ベルリン大会、1988年ワシントンD.C.大会などに参加された。ラムサール大会は革命前で、UIFA会員のファラ王妃の出席があり,華やかな晩餐だったそうだ。シアトル大会では、知り合ったベルギーの方々と交流が30年近く続いたと、船津さんは25周年記念誌に書かれている。とても素敵な体験をたくさんされている。

戦中・戦後の苦しい時代もあったと思うが、楽しく丁寧にお話ししてくださった。船津さんの強さのルーツが少し分かったような気がした。

I have the opportunity to meet Ms. Takako Funatsu, a senior alumnus from my university, every month. During these meetings, I often hear stories from her past. I felt it was a shame to keep these stories to myself, so I had always wanted to share them someday with everyone at UIFA JAPON. (See Newsletter No. 126 for Ms. Funatsu's article on Manchuria and the war.) So we held an event in a cozy atmosphere via a members-only Zoom meeting.

Ms. Funatsu's father was a dam engineer who lived with his family in Jilin Province, Manchukuo. After the war, he was unable to return home for eight years due to forced technical retention.

After returning to Japan, Ms. Funatsu studied intensely and entered the Faculty of Engineering at Hosei University, where she was reportedly the only female student.

For the 1×1 Collection Exhibition, she displayed beautiful photographs of Angkor Wat taken during her visit in 1965.

She participated in many UIFA Conferences held in many countries overseas, and had truly wonderful experiences.

I now feel I understand a little more about the roots of Ms. Funatsu's strength.

1984年ベルリン大会にて
左より中岡さん、ソランジュ会長、船津さん、松川さん

## ■役員会報告

**2025年度第3回/2025年9月9日**　記念講演会報告　震災公園防災カフェ報告　能登宝立小中学校ステッカー報告　Web交流会準備10月能登カフェ準備　法末再訪報告とお茶会開催提案　NL131号発刊　NL132号編集報告

**2025年度第4回/2025年11月14日**　Web交流会報告　能登カフェ報告　法末報告とお茶会開催提案　源流研活動報告　NL132号編集報告

## ■編集委員からひとこと

今回の万博には行けなかったので、オンラインのイベントにはちょっと参加してみたが現実に勝るものはない（宮本）／暑さから急な寒さへ、穏やかな季節が無くなってしまった…（薄井）／女性建築家パイオニアで、勤務先の大先輩船津さんの満州や大学時代のお話に感銘！（牛山）／11月に武村雅之先生の地震防災の話を聞いた。4回目だが何度聞いても新たな学びあり（有村）／メールは便利なものですが“リアル”の大切さを再認識します（渡邉）／11月は「ポケモンGO」で街に人が溢れ、12月は地元チームのJ1昇格でパレードに人が集まった長崎（平野）／1970年に行かない決心が今まで続き、とうとう今回も行かなかった万博だった（編集長:井出）